

**株式会社 ポーラ・オルビスホールディングス**  
**2024年12月期第2四半期 決算説明会 主な質疑応答（要約）**

**Q1. ポーラ 見通し修正の国内・海外、上期・下期の内訳は。**

⇒ 上期の売上高は想定に対して約 32 億円未達。これを踏まえて下期を見直した。通期では売上高を 70 億円、営業利益は 36 億円下方修正した。修正の国内外の内訳は、売上高は国内 35 億円、海外 35 億円、営業利益は国内で 16 億円、海外 20 億円程度それぞれ下方修正。また、上期・下期の内訳について、海外の下期は保守的に見通し通期で損益均衡を想定。国内は下期に増収増益転換を目指す。

**Q2. ポーラ 国内の7月月次売上高がプラス転換した要因は。7月以降減速するリスクはないか。**

⇒ 7月の月次売上高は、ポーラの国内事業全体としてプラス 5%強となった。下期の好スタートには、委託販売の現場において活動が活性化できる商材であるアペックスの肌分析が寄与しており、下期は増収が見込めると期待している。肌分析のリニューアルに向けては 2Q から準備を進めており、ビューティーディレクターにおいて肌分析の担い手を広げる基盤づくりを進めてきた。7月におけるアペックスや肌分析の寄与は一過性のものではないと認識しており、お客さまとの接点を拡大しクロスセルにつなげていく考え。

**Q3. ポーラ 委託販売の店舗減少数は想定内か。**

⇒ 期首想定では、年間の店舗の減少数は 100 店舗程度には収めたいと考えていたため、想定を若干上回る。ただ、今年減少した店舗は比較的小規模な店舗が多い。下期は成長店舗を伸ばしていくことで減少影響をオフセットしたい。

**Q4. ポーラ 2Q 時点のビューティーディレクターの数は。**

⇒ 2Q 末で 21,000 人と 1Q と同程度。これまでのトラックからすると年間では現在の水準よりも若干減少する見込み。ただし、販売品質の高いビューティーディレクターの動きが重要であり下期はそこを重視していく考え。

**Q5. ポーラ 中国の見通しを引き下げているが、中期経営計画における中国の見方は変更したのか。**

⇒ 中国の 2Q は、エステ提供型店舗において復調がみられたものの、上期の状況を踏まえ下方修正を行った。これまでのように店舗を増やして接点を広げていくよりも、特定のお客さまの層にマーケティングを集中させ深い関係性を築いていく戦略に変更し、VIP 顧客との限定イベントの実施や、富裕層との新たな接点づくりを進めている。中国を海外事業の軸とする考えに変更はないが、中期経営計画の経営指標達成には、中国以外の国へのアロケーションが必要になると考えており、例えば ASEAN での接点拡大を進めていく。

**Q6. ポーラ 海外の下期減益想定は売上減によるものか。費用先行など特殊要因はないか。**

⇒ 下期の中国は上期同様 20%強の減収を見込んでいる。減益は減収に伴う粗利益の減少によるもので、費用先行によるものではない。コスト削減は進めていくものの、売上の修正額の大きさと元々の海外事業の粗

利率の高さを鑑みると、売上減による利益影響が大きい。中国の不透明な事業環境を踏まえて保守的に想定した。

**Q7. オルビス 下期の営業利益の想定はどのように見ているか。**

⇒上期実績に対し下期は保守的に見ているが、2Q 単独の売上、営業利益は 1Q 以上に伸びており減速の兆候が見られるわけではない。これまで伸張率高く成長してきた外部チャネルに一巡感が出てくることも想定されるが、新商品投入と LTV の高い顧客獲得を継続し可能な限りアップサイドを狙いたい。

**Q8. Jurlique 黒字化のタイミングに変更はないか。**

⇒上期は増収であるものの赤字拡大。豪州が好調で、主カスキンケアの HERVAL RECOVERY のリニューアルを実施し販促費を増やして成長した。中国の業績が回復してくれば費用の増加を吸収できたがそこが難しかった。Jurlique の黒字化は重要であり、豪州の成長と中国の立て直しによるトップラインの引き上げ、経費の効率化によって 2025 年度の黒字化を実現していきたい。

**Q9. 市場 国内市場、中国市場をどう見ているか。**

⇒インバウンドを除くと国内化粧品市場は 1Q で約 5%、2Q 単独で約 2%強の伸張と捉えている。昨年よりオープニングによる市場の伸長があったため今年は市場の伸び率は徐々に鈍化していくと想定していた。2Q 単独では価格帯別には 3,000 円未満の価格帯が伸長しミドルの価格帯が減少。10,000 円以上の高価格も減少したが四半期での推移だけでは判断しづらい。中期的には 1,000 円未満と 10,000 円以上の価格帯が伸張し二極化傾向が続いている。中国市場は期首想定では 1 桁前半の伸長とみていた。小売りの状況を見ると 2Q 単独では市場は前年並みから微減との統計データもあるが、実際の事業環境としてはもう少し弱い印象を持っている。

**【注意事項】**

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、ポーラ・オルビスホールディングス 2024 年 12 月期第 2 四半期決算説明会の質疑および、前後における問合せをもとに、当社の文責により趣旨を要約(順序不同・補足・補正)したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている業績見通しや将来予測などに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。